

第5回大田区MICE推進会議 議事要旨

日時：令和2（2020）年2月27日（木）14：30～15：30

場所：大田区役所 901 会議室

委員出席者：玉井会長、荻原委員、加藤委員、児玉委員、小橋委員、濱田委員、細島委員、横内委員 ※ 五十音順（会長除く）

大田区MICE：観光・国際都市部文化振興課長 北村氏

推進庁内検討 企画経営部広聴広報課長 高野氏

会議委員出席者 総務部総務課長代理出席 長谷川氏

企画経営部企画課長代理出席 花谷氏

観光・国際都市部スポーツ推進課長 堀氏

まちづくり推進部都市計画課長代理出席 前川氏

空港まちづくり本部空港まちづくり課長代理出席 三須氏

産業経営部産業振興課長（観光・国際都市部産業観光調整担当副参事兼務）代理出席 森本氏

地域力推進部地域力推進課長代理出席 山崎氏

※五十音順

1. 開会

事務局から、開会が宣言された。

2. 第4回大田区MICE推進会議議事要旨（案）について

資料1「令和元年度 第4回大田区MICE推進会議議事要旨（案）」に基づいて、前回の討議内容について事務局から説明が行われた。

発言内容等について意見がある場合は、3月3日（火）までに事務局に連絡するよう、会長から依頼があった。

3. 次年度以降の体制について

資料2「今後のMICEの方向性～令和二年度～」に基づいて、次年度以降のMICE取組体制について事務局から説明が行われた。

（会長）

- ・ 大田区では、アドバイザー機関であるMICEビューローと、誘致の実働部隊であるヘッドクォーター（HQ）を設置し、中核として誘致活動を進めていく。
- ・ 大田区には地域DMOがないので、MICEビューローは、将来的には観光エリアマネジメントの観点からMICE以外の観光まちづくり分野にも関与する、DMO的な役割も担うことになると考えている。
- ・ 「大田区らしいMICE」を地域密着と捉え直したので、HQは、地域と連携し、支えられるような組織になってもらいたい。

4. 大田区におけるMICE誘致の戦略とあり方（案）について

資料3「（仮称）大田区におけるMICE誘致の戦略のあり方（案）」、資料4「[概要版]（仮称）大田区におけるMICE誘致の戦略とあり方（案）」に基づいて、前回の会議での指摘事項を踏まえ事務局から説明が行われた。

（荻原委員）

- ・ M I C E 推進会議で「重点分野の見直し」について議論をした記憶がないが、様々な分野のM I C E に柔軟な対応をするという解釈で良いか。

(事務局)

- ・ 昨年度、M I C E 推進会議の議論をもとに、「大田区観光振興プラン 2019-2023」の基本戦略として「『大田区らしいM I C E 』の確立に向けた展開」を盛り込み、その中で施策として「重点分野の設定」を定めた。
- ・ これをふまえ、今年度、M I C E 推進会議での議論によって、大田区が取り組む重点分野を中小規模M I C E、テーマ型M I C E、空港M I C E に設定した。
- ・ 今後、誘致が進展した際には重点分野を見直すことも必要になってくる可能性があるため、戦略書に記載するここからの取組は「重点分野の見直し」と表現した。

(荻原委員)

- ・ そういった趣旨であれば、問題ない。

(会長)

- ・ 戦略書は、既に前回までにはほぼ議論を終えていることもあって、各委員、大きな問題はないと感じているようにお見受けした。
- ・ ここで、来年度以降の大田区M I C E 誘致に関係して、委員の方々にステークホルダーとしての立場からの期待や協力の可能性について述べていただけないか。

(児玉委員)

- ・ 当社は企業を主な顧客として、M I C E の会場制作や事務局運営を行っている。普段担っている業務分野に加え、地元企業の当社は区内事業者との繋がりもある。地域にアフターM I C E の参加者を流すためのサポートも行っていきたい。

(会長)

- ・ 大田区におけるM I C E 誘致の実務に関わる意向があるという理解でよいか。

(児玉委員)

- ・ M I C E 誘致の実務は、当社が得意とする分野なので、ぜひ関わりたい。

(小橋委員)

- ・ 当信用金庫は区内に 15 店舗 2 出張所を抱えており、区内企業への情報発信でM I C E に協力できる。
- ・ 羽田空港跡地の「HANEDA INNOVATION CITY」内に、先端企業と地域企業のビジネスマッチングを行う拠点を設けるので、この拠点を生かしたM I C E への協力も行いたい。

(細島委員)

- ・ 足元ではコロナウイルスの影響により、中国線の利用者が激減し、他の海外・国内路線も自粛傾向で利用者が減少している。しかし、羽田空港はわが国随一の国内線路線網に加え、3月には国際線の増便も予定されており、中期的な視点からは、航空事業者として、国内M I C E はもとより、国際M I C E にも協力できる。
- ・ 飛行機を降りてすぐに会場に着けるという大田区の持つ利便性を、M I C E に生

かしていきたい。

(荻原委員)

- ・ 「大田区らしいMICE」を構築するために、各委員が利害関係を乗り越えたことで、戦略書の内容に大田区らしさを織り込むことができた。
- ・ 航空事業者である当社には、羽田空港のポテンシャルがMICEに生かされるようにする責務がある。空港を中心としたMICEを盛んにするなど、区民の目に見える形で、企業資産を提供したい。
- ・ 香港政府観光局では、15名以上のMICE参加者に対しては、必ずボールペンとパンフレットを記念品として配布しているそうだ。大田区も同じように観光協会などを巻き込んでMICE誘致活動ができると望ましい。

(濱田委員)

- ・ 3月の開催が予定されていた地域イベントや、企業MICEの一種である内定式が中止になるなど、当社はコロナウイルスの影響を大きく被っており、旅行が平和産業だということを実感している。
- ・ 当社はMICEの送客から受入まで一挙に担えるので、来年度以降のMICE推進体制でも是非協力したい。
- ・ 当社では羽田空港旅客ターミナルビルの運営会社と連携して、国内外からの誘客など羽田空港のエリアマネジメントを進めている。極力、大田区にとって良い形になるよう協力したい。

(加藤委員)

- ・ MICE推進会議における議論の成果が表れた戦略書になっている。今後はHQに協力しながらMICEに携わりたい。
- ・ 当社は平和島に車庫を持つ区内事業者であり、羽田空港からMICE会場までの輸送に協力できる。
- ・ また、アフターMICEで観光ツアーを実施する場合、当社ガイド中には外国語に堪能な者もいるので国内外の参加者に対して大田区の魅力をアピールできる。当社の定期観光バスは1人から参加できるので、参加者がバス1台分に満たない小規模MICEでも協力できる。

(横内委員)

- ・ 推進会議の議論を経て、改めて大田区が持つ多様性や、ポテンシャルの高さを実感した。
- ・ 18万世帯にネットワークを持つメディア企業である当社は、地域住民にMICEの意義を伝えることができる。
- ・ 全国では1,383万世帯とネットワークを持つので、大田区の魅力を全国に発信することもできる。

(観光・国際都市部スポーツ推進課)

- ・ 当課は大田スタジアムや大田区総合体育館など大規模なスポーツ施設を管理しており、中でも大田区総合体育館では、アジアカップや世界大会といった大規模な大会が開かれることもある。
- ・ 大会主催者に区内での宿泊やアフターMICEを勧めるようになったが、ホテル

の客室をまとめて取ることに苦慮している、200人規模の宴会場が欲しいといった具体的な要望が寄せられるようになり、関係者と都度調整している。

- ・ 今後も関連事業者と連携を取って、参加者が大田区を楽しめるようにしたい。

(産業経済部産業振興課)

- ・ 当課は大田区産業プラザP i O及びP i Oの運営者である公益財団法人大田区産業振興協会の管理をしており、P i Oは大規模なものから中小規模のものまで幅広いM I C Eに利用してもらっている。
- ・ 現在、(仮称)大田区産業振興構想の作成を進めており、その中では観光も重要な要素として位置づける予定となっている。
- ・ 公益財団法人大田区産業振興協会は、商店街と連携し、P i Oを利用するM I C E主催者・参加者に向けて、近隣飲食店の紹介を行っている。
- ・ 当課としてもM I C Eに協力していきたい。

(事務局)

- ・ M I C Eのステークホルダーである委員の方々には、引き続きM I C Eに協力してもらいたい。

(会長)

- ・ M I C Eはなかなか理解されにくい概念だが、日本語にすると集宴会になり、人が集まることにコミュニケーションビジネスとしてのM I C Eの本質がある。
- ・ 東京2020大会の後、国がコンベンションを重視するようになるかと思うが、観光立国を目指す上では、パンデミック等危機管理体制の整備が必要不可欠だ。
- ・ 2年間のM I C E推進会議での議論が無駄にならないよう、次期基本計画にも成果を組み込んでもらいたい。

(事務局)

- ・ 「大田区らしいM I C E」のイメージをまとめることができ、委員の皆様に感謝している。
- ・ 戦略書の内容に対する意見があれば、3月3日(火)までに事務局に連絡していただきたい。いただいた意見の反映、庁内調整などに基づく微細な表現の修正などに対応し、最後のとりまとめは会長一任とさせていただきたいが、よろしいか。

(各委員)

- ・ 異議無し。

(事務局)

- ・ 完成版ができ次第、委員の皆様に送付させていただく。

5. 閉会

事務局から事務連絡が行われ、閉会が宣言された。

以上